

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101151		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム太陽の里		
所在地	島根県松江市佐草町72-1		
自己評価作成日	令和6年1月23日	評価結果市町村受理日	令和6年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和6年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム太陽の里は令和4年9月に事業休止をして、令和5年5月に事業再開しました。一時休止に伴い入居者、スタッフが一新されて新たに作り直している事業所です。日々のケアに、安定さには欠けるかもしれませんが柔軟な対応が行える事業所であろうとはしています。

地域の方々との交流については、新型コロナウイルス感染症対策で交流を控えている中での休止されたこともあり交流を持つ機会が無くなっています。法人の他の事業所と歩調を合わせて徐々に地域の方々との交流の機会を確保していきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者も職員も新たになり、事業所を再開した。新たな職員には外国人スタッフ複数も加わっている。利用者、家族の思いや要望を受けて、安心して毎日が送れるように細やかな連絡をしながら柔軟な対応が出来る様に取り組み、利用者の笑顔に繋げている。利用者寄り添うケアを目指し家族と職員間で、情報の共有に努めたり、わかりやすい表示にするなど学習を重ね取り組んでいる。良好な人間関係作りを目指し、「ポケットク」を利用するなど出来ることから取り組み、理念に沿ったケアが出来る様に意識づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とGHの理念を、共有して実践につながるよう掲示をして常に確認できるようにしている。	入職時に理念について説明している。見えるところに理念を掲示し職員の意識付けに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のゴミ拾い活動等に参加できるようにしていますが、日常的な交流とは言えません。地域への情報発信や行事への招待等、今後の課題です。	散歩時に地域の人と挨拶をかわしている。職員は地域のゴミ拾い等声掛けがあれば参加したり、今後事業所の情報発信など取り組みを考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所から地域の人々へ認知症の理解や支援方法などについての情報発信はできていません。事業所としての地域貢献は今後の課題です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所再開後、9月より2カ月おきに開催しています。会議で出た意見を支援に反映できるように努めています。	事業所の取り組みや現状を報告し質問や意見をもらい話し合っている。「事故、ヒヤリハット報告をしてもいいのではないか」など、出た意見を反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を活用して日頃の様子を報告しています。また、必要に応じて随時連絡をとり相談しています。	実情や取り組みを伝え協力関係を築いている。事業再開にあたり、運営推進会議の運営方法など相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修、事業所の勉強会で身体拘束について学び、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。	事業所内、外で研修を行い、正しい知識と理解に努めている。気になる言葉掛けや対応に気づいた時、職員間で話し合う機会もあり確認しながら拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修、事業所の勉強会で虐待防止について学び、虐待防止に努め、不適切なケアを減らせるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修、事業所の勉強会で幅広く権利擁護について学んでいます。業務、支援の中で活用できていると思われます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、時間を用意してもらいゆっくりと説明するようにしています。随時質問を受け付けて納得していただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会等の際に要望を聞いています。第三者委員も設けて苦情対応についても案内しています。	面会時や電話で状況を報告し、意見や要望を聞く機会がある。家族から費用について相談があり地域包括支援センターに繋げるなど意見を支援に活かせる様努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長と職員、管理者と職員で随時、面談や会議等で意見や提案を聞く機会を設けています。	日頃から意見を聞く機会がある。薬や人体図を印刷した「見てやるチェック表」を作成しベットのそばに置き、目で確認しやすいようにしたり、出た提案は支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系、就業規則も公表しており、職員個々の能力に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、事業所内での研修を行っている。認知症実践者研修等、外部研修への参加も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会や外部研修等、同業者との交流の機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行い本人の想いを聴くことのできる機会を設けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事業所の見学、申し込み時から家族の想いを聴くようにして関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居判定の段階で他のサービスを含めて当事業所のサービスが適当か判断しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩という意識をもって、自身で出来る事を続けて行けるような関わりを持つように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告として手紙で日頃の様子や家族にお願いしたい事等を伝えています。事業所では十分にできない事等、家族と協力して支援を行うように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ対策による制限が残っていますが、面会や外出を行ってもらっています。	散髪業者の訪問があったり、家族対応で理髪店や外食に出掛けたり、親戚の人の面会もあり、馴染みの関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係を把握して職員間で情報共有できるように努めています。入居者同士の関わりがもてるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の相談、支援が可能なことは伝えていますが実績はありません。再開後、1名退居者はいますが、特別支援を行う事はありませんでした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動の中から本人の思いや希望、意向をくみ取れるように努めています。	日頃から思いや意向の把握に努めている。写真を撮ることが好きな利用者の作品を見て話が弾んだり、さみしがりな利用者へ寄り添うなど職員間で情報を共有し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境、入居に至るまでの経過等を把握できるように情報シートにまとめています。日々の関りの中でも情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の状況を記録して、情報シート、1日の過ごし方シートにまとめています。カンファレンス等で情報の把握と共有を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題の整理やケアの方向性について随時業務内での話し合い、定期的なカンファレンスで検討しています。家族にも随時連絡を行い介護計画にも反映させています。	本人や家族からの意見や要望を聞き、情報ノートを活用し職員間で確認し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に具体的な状況を記録して情報の共有が行えるように努めています、介護計画の見直しに活用していますが記録内容の充実は今後の課題です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	再開間もないこともあり柔軟な取り組みができるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策による制限が残っていて積極的な外出機会は持ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿って、かかりつけ医の訪問診療や受診及び、家族、職員による受診の支援により必要な医療が受けられるように努めています。	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医に受診している。家族同伴の受診には、家族に状況を説明し、医師には連絡票で知らせるなど適切な医療が受けられる様に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々の支援の中で気づいたことを職場内の看護師や法人の看護師に報告、相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が主導して医療機関への情報提供が速やかにできるように努めています。入院中は相談員等を通じて状況の把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、看取りに関する指針に同意をいただいています。状況が変わった際にも再度話し合い、説明と同意を得る事となっています。	入居時に重度化についての説明をし理解を得ている。体調の変化時には家族に連絡し、関係者と話し合い事業所として出来る事を伝え、情報を共有しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救命講習を受講して緊急時の対応を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火訓練の実施と勉強会を行っています。法人内の事業所との協力体制も整えています。BCPについても作成中です	防火訓練の実施時、マニュアルを図式化し、見てわかる様工夫を行っているが、誰でも対応できるようにするためには課題があると管理者は考えている。個別の教育や訓練の継続の必要性がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権講習を行い人格の尊重、プライバシーの保護について配慮して支援を行うように努めています。	法人研修を通して、人生の先輩として、プライバシーを損ねない、声掛けや対応、接遇を学んでいる。その人の立場になったらどうなのか意識して支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるように支援を行うように努めています。業務上の制限もあり、表された希望に十分に支援できているとは言えません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重するように努めています。職員の都合で支援を行っている事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪業者に定期的に訪問してもらっています。また、家族の対応で馴染みの方法での散髪も行っています。おしゃれに関しての本人の意思や思いを尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを把握するように努めています。入居者の力に応じて一緒にしてもらえよう努めています。状況的に一緒に準備、片付けはあまり行えていません。	利用者の希望の献立を提供したり、行事に合わせた食事では話が弾むよう工夫している。テーブルを拭くなど利用者が出来ることで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に献立のチェックとアドバイスを受けています。その方の状態に応じた食事を提供できるようにしています。摂取量も記録に残して状態の把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの介助及び自分でされる方への促しを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的にはトイレでの排泄を続けられるように支援しています。入居者に応じて定期、随時のトイレ誘導を行っています。	排泄パターンを把握して、さりげない声掛けでトイレでの排泄が続けられる様支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で排便の状況把握を行い下剤の服薬管理を行っています。排泄介助のタイミングや食事面での配慮を行い個々に応じた対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望のタイミングでの入浴とはいきませんが、意向を尊重して無理強いをしないようにしています。	利用者の状況にあわせて、ゆっくりとした支援をしている。同性介助を希望している利用者に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にゆっくり休めるように照明、室温等の環境を整えるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を常に確認出来るようにしています。個々に応じた服薬方法を行えるように情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーションに誘い気分転嫁を行えるように支援をしています。個々の役割や楽しみを持てるように努めていますが、十分な支援が行えているとはいえません。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩程度は状況が許せば本人の希望に応じて対応しています。また、家族との外出や外食も行ってもらっています。	利用者の希望で散歩に出掛けたりドライブを計画し、紅葉見物などに出かけている。受診後などに家族の協力で希望の所に出掛ける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は事務所で預り金として預かっていますが、自身で持っている方もいます。自分で所持しているお金に関しての使用は支援しますが紛失などの保証は行っていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやり取りの支援は行っています。手紙については入居者に届くものは見れるように支援していますが、現在手紙を出す方はおられません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然光が取り入れにくい作りではありますが、快適に過ごせる環境となるように努めています。また、飾り等で季節感が感じられるように努めています。	手作りの飾り物で季節を感じたり、ソファや畳スペースに座り、思い思いに過ごせる様居場所づくりの工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、テーブル席やソファ、畳スペースがあり思い思いの場所で過ごせるようにしてあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して、思い入れのある小物や家族の写真等を持って来てもらっています。	利用者が以前使っていた好みの小物やプラモデル、家族の写真を持ち込んでいる。家族と相談しながら本を置き、落ち着いた雰囲気の中で安心して生活できる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりが設置してあります。トイレが分かりやすいようにマークをつけたり、障害物で動線を塞がないように努めています。施設内点検で定期的に環境の確認をしています。		